

領主 尾州 徳川家 六十二万石 徳川親藩御三家

寛永十三年(二六三〇)四月一日 二代光友日光例参道中 大湫宿泊り 千村氏出迎え(香庵正意日録)

延享元年(二七四四)四月十五日 八代宗勝出府道中 成瀬隼人正・阿部石見守従行伏見・中津川宿泊り

継人馬千五〇〇人・一七五疋(五一八石の山田村へ六〇人・九疋触当)

同 二年(二七四五)四月十五日 同右 帰国道中 大湫宿にて昼食 山村・千村氏ら出迎え(古今諸留記)

同 三年(二七四六)三月二日 同右 出府道中 竹腰山城守従行 継人馬千一〇〇人・一九〇疋

宝暦七年(二七五七)四月十二日 同右 帰国道中 継人馬千人・二六〇疋(山田村へ四六人・八疋当る)

同 八年(二七五八)三月二日 同右 出府道中 継人馬千一〇〇人・一三五疋(山田村へ五八人・七疋)

同 九年(二七五九)四月十二日 同右 帰国道中 継人馬千二〇〇人・二五〇疋

同 十一年(二七六一)三月三十日 同右 同右 継人馬千二〇〇人・二〇〇疋 大井・伏見宿泊り

安永五年(二七七六)八月六日 九代宗睦子遺骸帰国 継人馬千五〇〇人・一五〇疋(山田村へ七九人八疋)

文化十年(二八二三)四月十一日 一〇代斉朝帰国道中 継人馬千二六八人・一六〇疋 大湫宿泊り(史料多数)

同 十二年(二八二五)六月 同右 同右 大井・伏見宿泊り(継人馬など前回並)

文政元年(二八一八)三月十四日 同右 出府道中 (十三日伏見泊り 十四日大湫御昼 中津川泊り)

同 七年(二八二四)八月二十九日 一一代斉温 同右 大湫宿へ拝見に行く(山田村渡辺氏日記)

天保十年(二八三九)四月二十八日 同右(良恭院)遺骸帰国道中 馬籠・御嵩宿泊り(継人馬千八六〇人・一六〇疋)

(東濃中大嵐にて土岐川の橋大半流失し助郷人馬難渋するもようやく勤める、村瀬氏萬法久家鐘・笹屋古今諸留記)

同 右 八月二十一日 同右 簾中俊恭院(福姫)帰国道中 継人馬千七五〇人・六五疋 御嵩宿泊り

安政元年(二八五四)三月三日 一四代慶勝出府道中 継人馬千三〇〇人・一二〇疋 伏見・中津川宿泊り

文久三年(二八六三)三月十九日 一六代義宣(元千代)出府道中 大湫宿十九日泊り

親藩 紀州 徳川家 五十五万五千石 御三家

安永七年(二七七八)四月二日 帰国道中 継人馬千五〇〇人・一三五疋(山田村へ七八人・七疋触当)

天保三年(二八三三)三月二十八日 同右 継人馬千人・一四六疋(笹屋古今諸留記 二回とも大井・御嵩宿泊り)

文政二年(二八一八)六月・同 三年(二八二〇)・同 四年(二八二二)十一月・天保三年(二八三三)二月(太田・

大井宿泊り 仮建など九ヶ宿より願上)・同 四年(二八三三)十一月・同 五年(二八三四)十二月(中山道御道中な

どなどと数氏の覚帳にあるも詳細不明

大藩 加賀 前田家 百二万二千七百石

嘉永元年（一八四八）三月二十五日 御上り通し道中 大湫宿泊り 近郷より大勢大湫宿へ拝見に出る。

二十六日御嵩御泊り御通行にて細久手へも御嵩へも数多拝見に行く。加賀様御供廻り惣勢二千五六百人、御国風にて立派な御行列也。手前の馬も伝馬に行く（猿子村中島氏日記。弘化四年（一八四七）の信州大地震（善光寺）に
より一時道中筋変更中）

岩村藩主 松平氏 郡上出陣

宝曆九年（一七五九）三月九日 （金森氏改易（郡上騒動）に伴い三代松平能登守乗滋は八幡城請取役として大湫宿通行
で出陣 「乗馬一七騎 槍三〇筋 鉄砲四〇挺 弓二〇張」 三月十六日無事大役を終え岩村帰城）

薩州藩主 島津侯 七十七万石

寛政四年（一七九二）七月十二日 御嵩宿・十三日中津川泊りの出府道中 宿々人馬触当あり（山田渡辺氏日記）

三河街道々中の大名（明賀洞道）

参州刈谷藩主土井伊予守 二万三千石 宝曆七年（一七五七）四月十四日 家老多米内膳以下総勢三三三人 乗馬三頭

駕籠三挺 乗掛三頭 長刀三振 槍一三筋 弓二〇張 鉄砲六挺 駄荷九駄 大井宿泊り出府道中

参州西尾藩主三浦志摩守 宝曆十年（一七六〇）三月二十三日 大井宿泊り出府道中（山田村渡辺氏日記）

参州孝母藩主内藤石近将監 三万石 天明三年（一七八三）出府道中・同 五年（一七八五）九月八日 江戸よりの帰国道

中（同氏・本荘氏日記）

御茶壺道中（三例）

寛文十二年（一六七二）六月二十一日 江戸下向道中

延宝元年（一六七三）六月三日 江戸下向道中

延宝三年（一七四八）五月初旬道普請触来る 道中御一行は大番頭小野氏・御茶道頭谷村様以下装束馬六頭 嫁馬五頭

羽織袴・袴の一行三八人 十八日妻籠・十九日細久手宿泊りで宇治へ 三十一日御嵩・六月一日大湫昼・中津川
宿泊りで江戸下向道中 継人馬四〇〇人・五〇疋（大湫宿笹屋士今諸留記）

朝鮮信使（二例／二三例中）

明和元年（一七六四）道中御一行約四〇〇人 大湫宿下向道中（猿子村水野氏日記）

文化八年（一八一二）九月二十二日大湫宿泊り 下向道中 献上品大鷹一八羽 鹿三疋はか お迎役林大学頭

近郷よりの拝観者で宿中大混雑（小田村本庄氏日記）

琉球使節（二例／十例中）

明和三年（二七六六） 道中費用国役金壹万石に永三百文 明知遠山氏七千六〇〇石へ金一九兩

（山田村明知領一〇二石へ一分と永六六文割当あり 山田村渡辺氏・猿子村水野氏日記・江戸屋史料二七七）

日光大祭例幣使（四月十七日例祭日）

百五十年大祭 明和二年（二七六五）三ヶ月 鷹司右大臣ほか殿上人多数 継人馬二千・三五〇疋（山田日記）

二百年大祭 文化十二年（二八一五）三月十九日 梶井門跡・青蓮院宮・近衛・徳大寺両石大臣以下十八頭下向道中

（御帰国は東海道々々） 人足百石に百人 大湫宿継人馬八千二〇〇人・三七九疋（小田村本庄氏日記）

大湫宿（尾州領 宿助郷へは尾州藩より四六八両下金あり配分す 他領宿・助郷へは五割増賃錢にて公儀より下金

あり（笹屋古今諸留記）

二百五十年大祭 慶応元年（二八六五）三月二十一日 梶井門跡・町尻・清水谷・中御門各宰相以下往復道中

継人馬計一万六千五百八十八人・八四八疋 九ヶ宿へ二千七百五両（大湫宿 三五〇両）下金あり（江戸屋史料一〇四）

例幣使入魂併余荷入用山田村へ二面割当の村方史料あり（江戸屋史料二二五）

日光門跡様道中

天明六年（二七八六）八月十八日 下向 大湫宿御昼 継人馬二千二〇〇人・一九〇疋（山田村へ二六人・一〇疋触当 山

田村渡辺氏日記）

寛政十一年（二七九九）八月十二日 上落 大湫宿泊り 継人馬千五〇〇人・一三五疋（山田村へ七四人・七疋猿子村へ四九人・

五疋触当 山田村渡辺氏・猿子村水野氏日記）

文化十年（二八二三）八月十二日 下向 十一日御嵩・十二日大井泊り 継人馬千四〇人・二三〇疋（猿子村水野氏日記）

安政六年（二八五九）八月 詳細不明（日門様道中につき難渋 従来通り十五両下金方の願書史料あり 江戸屋史料二二〇）

善光寺様御巡国

寛保元年（二七四二）二月二十三日 京都・大阪御開帳道中 大湫宿泊り（御開帳あり近郷の善男善女にて大繁昌）

乗掛三六頭・駄馬三疋 如来様・大勲進靈山院様以下御一行二一七人 継人馬総て奇進継（笹屋古今諸留記）

安永九年（二七八〇）三月三日 京都御開帳道中 大湫泊り（御開帳あり大繁昌） 四日御嵩泊り（山田村渡辺日記）

寛政十年（二七九八）五月一・二日 大湫二日間・岩村三日間御開帳（五日とも大繁昌） 京都へ御巡国道中（同十一年春より

善光寺様掛軸頒布、三・四月善光寺様御開帳あり 当国地方よりも多数参詣す。渡辺・水野氏日記）

そのほか特記される通行

貝原益軒(儒学者) 貞享三年(二六八五)

中津川より大井へ二里半 大井より大久手へ三里半 中野村より

大久手へは右へ廻り北の方へ行く 此の間に西行坂とて坂ありて西行の墓あり 大久手より細久手壱里半

(岐蘇路記)

吉田松陰(志士)

嘉永六年(二八五三)三月二十五日

大湫宿泊り

村瀬半左衛門合寛を訪う

十六日 三留野に宿す…

(癸丑遊曆日録)

大田南畝

(蜀山人) 享和二年(二八〇二)三月二十七日

御嵩発・大湫御昼・大井泊り(壬戌紀行作者)

伊能忠敬

(天文方) 文化六年(二八〇九)十月十一日

大井宿発大湫宿泊り(六十四才・八月二十八日江戸出發一行二〇

人・十月十日中津川発大井泊り 十二日大湫発細久手泊り・二泊 十四日御嵩泊り測量道中)

ラクダ(駱駝)

文政七年(二八二四)八月五日

大湫宿泊り(賑う)

見世物として江戸・東国までの道中

水戸浪士

(天狗党) 元治元年(二八六四)十一月二十八日 大湫宿御昼・御嵩宿泊り

(二十六日馬籠・二十七日大井泊り 武田耕雲斎以下の水戸天狗党二行約千人(浪士覚書 江戸屋史料二七九)

東征軍(官軍)

明治元年(二八六八)二月二十五日 大湫宿泊り

(二月二十一日京都発・二月二十四日御嵩・二十六日中津川宿泊り)

東山道岩倉具定総督以下五千人東進・十月

会津落城により東征軍の帰国つづく(十月二十二日長州奇兵隊四四三名 二十三日報国隊六五〇名 二十六日芸

州隊一四五名 二十七日同集議・千賀・井野口隊千名 二十八日芸州隊二三〇名 二十九日同二〇〇名 三十日

同一九五名ら大湫宿割帳あり さらに十一月の官軍継人馬数について 一日長州干城隊ほか五八八人・二七疋

二日尾州藩ほか四八五人・六疋 三日岩国藩ほか五四九人・一二疋 以下元年十一月分大湫宿継立日帳に上下

合人足八千四三三人・馬三三九疋と記し 十月く十二月にかけて東征軍の帰国とそれに対する人馬の継立業務が

つづいていたことが知れる。(大湫宿長州奇兵隊宿割帳 江戸屋史料二七二)・同辰十一月分継立日帳(同七七八)